

誰一人取り残さない 災害対応のために inOKAZAKI ～支援機関向けワークショップ～

災害ケースマネジメントとは何か
自分の専門分野以外ではどういう人
たちが関わってくるのか、どうい
う問題が起るのか



参加費

無料

定員

100名

(事前申し込み)

託児あり
(要相談)

日程

令和6年2月5日(月) 14:00-16:30

会場

岡崎市役所福祉会館6階大ホール

■ 開会挨拶及び趣旨説明

【第一部 講演】14:10～15:00

■ 「災害ケースマネジメントの概要及び実施のポイント」

大阪公立大学 菅野拓 氏

■ 「災害現場から見た災害ケースマネジメントの必要性」

愛知医科大学 佐々木裕子 氏

【第二部 ワークショップ】15:10～16:30

■ 「災害時要配慮者に伴う複合的課題に、災害ケースマネジメントの視点を用いて、どう連携し、どう対処していくか?」



アクセスマップ

〒444-0022 岡崎市朝日町3丁目2



主催:岡崎市 共催:一般社団法人こども女性ネット東海 託児協力:一般社団法人こどもと暮らすiiねっと
お問合せ:岡崎市防災課 TEL:0564-23-6898 E-mail:bosai@city.okazaki.lg.jp

～岡崎市は災害ケースマネジメントの推進に舵を切ろうとしています～

災害ケースマネジメントとは、大きな災害があった時に市民、特に災害弱者と呼ばれる方を「誰一人取り残さない」という福祉防災の観点から、各福祉・保険・就労・建築分野で連携して、困りごと把握から実際の生活再建まで行っていくという取り組みです。



講師紹介

菅野 拓 氏

大阪公立大学大学院文学研究科准教授



博士（文学）。専門は人文地理学、都市地理学、サードセクター論、防災・復興政策。社会問題など「やっかいな問題」の解決が一貫したテーマで、その観点から災害対応やNPOなどサードセクターの活動を継続的に調査・実践している。近著に『つながりが生み出すイノベーション—サードセクターと創発する地域—』、『災害対応ガバナンス—被災者支援の混乱を止める—』（いずれも単著、ナカニシヤ出版）。最近の主な委員として、内閣府「被災者支援のあり方検討会」委員、厚生労働省・内閣府「医療・保健・福祉と防災の連携に関する作業グループ」参考人、熊本市「復興検討委員会」委員など。

佐々木 裕子 氏

愛知医科大学准教授

訪問看護師として阪神淡路大震災で活動したことをきっかけに災害時の支援活動に取り組む。活動の中で在宅ケアサービスの利用者をはじめとした要配慮者の命を守る対策の必要性を認識し、減災につながる効果的な対策を明らかにする研究を始める。専門は在宅看護学、ターミナルケア。看護師、保健師、社会福祉士、精神保健福祉士、レスキューストックヤード（認定NPO法人）専門職パートナー、JVOAD（認定NPO法人）避難生活改善に関する専門委員会アドバイザーなどを務め、岡崎市でも研修や講演を多数行う。



一般社団法人こども女性ネット東海

こどもと女性目線で日頃より防災・減災の活動として「たすかる」活動、被災地も含めた「たすける」活動を行っています。発災時には、地域のNPO等や専門家とつながり、被災者が早く日常に戻るような支援をしています。

電話：052-919-0200

Eメール:kyumin@cwnt.jp ホームページ:<https://cwnt.jp>